

物件名称：徳島県鳴門総合運動公園野球場改築工事のうち建築工事（第1工区）

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
S-000	図面リスト	S-060	雑詳細図	S-101	梁貫通補強要領（1）		
S-001	建築工事特記仕様書（10）<構造関係（1）>	S-061	軒天井詳細図	S-102	梁貫通補強要領（2）		
S-002	建築工事特記仕様書（11）<構造関係（2）>			S-103	配筋納まり詳細図		
S-003	建築工事特記仕様書（12）<構造関係（3）>			S-104	山留め図（1）<参考>		
S-004	鉄筋コンクリート造配筋規準図（1）			S-105	山留め図（2）<参考>		
S-005	鉄筋コンクリート造配筋規準図（2）			S-106	屋根鉄骨建方要領書<参考>		
S-006	鉄筋コンクリート造配筋規準図（3）						
S-007	鉄骨規準図						
S-008	溶接規準図（1）						
S-009	溶接規準図（2）						
S-010	New J-BAR特記仕様書						
S-011	プレストレストコンクリート特記仕様書						
S-012	土質柱状図（1）						
S-013	土質柱状図（2）						
S-014	杭伏図						
S-015	基礎・ビット伏図						
S-016	1階伏図						
S-017	2階伏図						
S-018	3階伏図						
S-019	3'階伏図						
S-020	4階伏図						
S-021	屋根伏図						
S-022	円周方向軸組図（1）						
S-023	円周方向軸組図（2）						
S-024	階段部・EV部軸組図						
S-025	半径方向軸組図（1）						
S-026	半径方向軸組図（2）						
S-027	杭リスト						
S-028	基礎リスト						
S-029	基礎梁・基礎片持ち梁リスト						
S-030	基礎小梁・基礎片持ち小梁リスト						
S-031	柱芯線図						
S-032	柱・基礎柱リスト						
S-033	大梁リスト（1）						
S-034	大梁リスト（2）						
S-035	PC梁 KEYPLAN						
S-036	PC配線・配筋図・断面リスト						
S-037	PC梁 定着端詳細図						
S-038	片持ち梁・小梁・片持ち小梁リスト						
S-039	壁・スラブリスト						
S-040	架構配筋図						
S-041	鉄骨部材リスト						
S-042	屋根鉄骨部材リスト、継手リスト						
S-043	SC1柱頭部詳細図（1）						
S-044	SC1柱頭部詳細図（2）						
S-045	SC1柱頭部詳細図（3）						
S-046	SC1柱頭部詳細図（4）						
S-047	SC1柱頭部詳細図（5）						
S-048	SC1柱頭部詳細図（6）						
S-049	屋根先端接合部詳細図（1）						
S-050	屋根先端接合部詳細図（2）						
S-051	屋根先端接合部詳細図（3）						
S-052	屋根先端接合部詳細図（4）						
S-053	屋根先端接合部詳細図（5）						
S-054	屋根先端接合部詳細図（6）						
S-055	屋根先端接合部詳細図（7）						
S-056	屋根架構詳細図（1）						
S-057	屋根架構詳細図（2）						
S-058	風除室詳細図						
S-059	階段詳細図						

設計者 一級建築士 第286776号 渡邊 和幸 一級建築士 第298249号 土生 達哉		一級建築士 第334570号 倉内 信幸 構造設計一級建築士 第9202号		一級建築士 第382844号 野中 翔太 一級建築士 佐藤 亮太		法適合確認欄	検証者 倉内 信幸	設計番号 17992	特記	徳島県土整備部営繕課	●工事名 徳島県鳴門総合運動公園野球場改築工事のうち建築工事（第1工区）	●図面番号 S-000	●縮尺 1/	 AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants 株式会社 梓設計 関西支社 一級建築士事務所登録 大阪（O）第2234号	 宮建築設計 MIYA Arohiteot's Office 一級建築士事務所登録 徳島県鳴門支店登録 1050号
---	--	--	--	-------------------------------------	--	--------	--------------	---------------	----	------------	---	----------------	-----------	--	--

建築工事特記仕様書<構造関係>	
1. 共通仕様	a. 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、「国土交通省大臣官房官庁官場部監修公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下「 「 」 」 という)による。 b. 設計図書における「 「 」 」 については「 「 」 」 と読みかえる。
2. 特記事項	a. 項目は番号に○印の付いたものを適用する。 b. 特記事項は○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は※印の付いたものを適用する。○印と◎印の付いた場合は共に適用する。 c. 特記事項に記載の()内の表示番号は「 「 」 」 の当該項目、当該図及び当該表を示す。 特記事項に記載の()内の表示番号は「 「 」 」 の当該項目、当該図及び当該表を示す。 d. 特記事項で「 「 」 」 とあるのは、設計図書記載事項を意味する。 e. 「 「 」 」 標準仕様書(参考資料)各配筋参考図」各配筋参考図は設計図書の一部とし、標準仕様書・同監理指針と同様の扱いとする。 f. 特記事項で「 「 」 」 とあるのは、「 「 」 」 鉄筋コンクリート造配筋規準図(1)(2)(3)」の記載事項を意味する。
3. 適用基準等	※ 宮崎工事写真撮影要領(平成31年版)

項目	特記事項
----	------

4章 地業工事

1. 試験	試験杭 ※ 行う(本杭兼用) ・ 行わない (4,2,2) 位置、本数、寸法 ※ 図示 ・ 監理者の指示(本)
	載荷試験 ・ 杭の載荷試験 試験種別(鉛直・水平) (4,2,3) ()箇所 最大荷重()kN ・ 地盤の平板載荷試験()箇所 最大荷重()kN/m ² (4,2,4) 試験を行う深さ GL-()m 試験地盤()
	載荷試験方法 ※ 載荷試験方法は(公社)地盤工学会の各種載荷試験方法に準拠し、試験位置は図示による。 ・ 図示
	報告書の記載事項 ○4.2.5(1),(2)による
2. 既製コンクリート杭地業	施工管理技術者 ※ 基礎施工士(既製杭施工管理技士) (4,3,3) 材料 (4,3,3) ・ 鉄筋コンクリート杭(JIS A 5372) ○プレストレストコンクリート杭(・A種・B種・C種・種 ※ 図示) ・ JIS A 5373 ○BCJ評定品 ○外殻鋼管付コンクリート杭(鋼板厚・t = mm ※ 図示) ・ JIS A 5372(Ⅱ類) ○BCJ評定品 ○鉄筋又は平鋼にて補強された杭(CPRC杭・種 ※ 図示) ・ JIS A 5373 ○BCJ評定品 ・ 拡張断面を有する遠心高強度プレストレストコンクリート杭(・種 ※ 図示) ・ JIS A 5373 ○BCJ評定品 注)BCJ:(一財)日本建築センター 杭の寸法、継手の箇所数 ※ 図示 先端部形状 ・ 閉そく型 ※ 開放型
	工法 (4,3,1) ○埋込工法、特定埋込工法 (4,3,4)(4,3,5) ・ セメントミルク工法 根固め液の範囲(・全長 ・ 杭頭 - mまで) ・ 中堀工法 ・ 中堀り打撃工法 ・ 中堀り根固め工法 ・ 中堀り拡大根固め工法(大臣認定工法) ○プレローリング拡大根固め工法(大臣認定工法) 杭周囲定液の使用(○)する(しない)する ・ 行わない ヤットコの使用 ・ mまで可とする 支持層位置の確認 ※ 積分電流計 ・ 電流計 長期設計支持力 ・ kN/本 ※ 図示 支持層 ○GL-(52.2)m、土質() 杭の根入れ深さ ※ 図示 ()m 杭の水平方向の位置ずれの精度 ※ X,Y方向共に100mm以下 ・ 図示 杭の鉛直方向の位置ずれの精度 ※ -100mm~+10mm ・ 図示 根固め液及び杭周囲定液の管理試験 ※ 表4.3.1による
	継手 ・ アーク溶接による溶接継手 ※ 機械式継手(大臣認定品) (4,3,6) 引張仕様継手の適用箇所 ※ 図示 ・ 無し
	杭頭の処理 ※ 図示 (4,3,8)
	高支持力杭(α>250)の試験杭を含む管理項目 ※ 積分電流計による支持層位置および根入れ深さ ※ 拡大ヘッドの拡張 ※ 施工管理装置(自動記録)と実施施工との整合 ○ 根固め部の未固結試料採取試験 採取位置 ※ 図示 試料本数 ※ 1箇所あたり3本 確認強度 ※ 認定条件による N/mm ²

3. 鋼杭地業	材料 (4,4,3) ・ 鋼管杭(JIS A 5525) ・ SKK400 ・ SKK490 ・ ・ H形鋼杭(JIS A 5526) ・ SHK400 ・ SHK490M ・ 先端部形状 ※ 開放型 ・ 図示 先端部補強 ※ 図示
	継手 (4,4,5) 杭の現場継手の工法 鋼管杭 ※ JIS A 5525 による ・ 図示 H形鋼杭 ※ 図示 溶接部の確認 ※ 4.3.6(4)による
	工法 (4,4,4) ・ 特定埋込工法 ・ プレローリング拡大根固め工法(大臣認定工法) ・ 中堀り拡大根固め工法(大臣認定工法) ・ 試し掘り ・ 行う()箇所 ・ 行わない ヤットコの使用 ・ mまで可とする 支持層位置の確認 ※ 積分電流計 ・ 電流計 長期設計支持力 ・ kN/本 ※ 図示 支持層 ・ GL-()m、土質() 杭の根入れ深さ ※ 図示 ()m 杭の水平方向の位置ずれの精度 ※ X,Y方向共に100mm以下 ・ 図示 杭の鉛直方向の位置ずれの精度 ※ -100mm~+10mm ・ 図示
	杭頭の処理 ※ 図示 (4,4,6)
	高支持力杭(α>250)の試験杭を含む管理項目は、2.既製コンクリート杭地業による。
4. 場所打ちコンクリート杭地業	施工管理技術者 ※ 基礎施工士 (4,5,2) 材料その他 (4,5,4) 鉄筋仕様 ※ 5章鉄筋工事の項目 1.材料による ・ 図示 帯筋 ※ 各部配筋参考図2.2 ○丸形 ・ 図示 継手 組み立てた鉄筋の節ごとの継手 ※ 5章鉄筋工事の項目 2.加工及び組立による ・ 図示 鉄筋かごの補強 ※ 杭径1.5m以下の場合鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50~75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、主筋と補強リングとの接合部は原則無溶接工法とする。 ・ 図示 鉄筋のかぶり厚さ ※ 100mm ・ 150mm ・ 図示 セメントの種類 ※ 高炉セメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント(JIS R 5210) ※ 6章コンクリート工事の項目 1.コンクリートの種類及び品質による ・ 図示 混和材料 ※ 6章コンクリート工事の項目 1.コンクリートの種類及び品質による ・ 図示 コンクリートの設計基準強度 ※ 6章コンクリート工事の項目 1.コンクリートの種類及び品質による ・ 図示 構造体強度補正値(S) ※ 3 N/mm ² ・ N/mm ² ・ 認定条件による コンクリートの種別及び余盛り (表4.5.1) ・ A種(無水掘り) ※ B種(左記以外)
	種別 水セメント比の最大値(%) 所要スランプ(cm) 粗骨材の最大寸法(mm) 単位セメント量の最小値(kg/m ³) 余盛り(mm) A種 60 21 25(20) 310 500以上 B種 55 340 800以上
	工法 (4,5.1)(4,5.5)(4,5,6) ・ アースドリル工法 リバース工法 ・ オールケーシング工法(ペント工法) ・ アースドリル掘込工法(一財)日本建築センター-評定工法) ・ リバース掘込工法(一財)日本建築センター-評定工法) ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び掘込工法(一財)日本建築センター-評定工法) 長期設計支持力 ・ kN/本 ※ 図示 支持層 ・ GL-()m、土質() 杭の根入れ深さ ※ 図示 ()m 杭の水平方向の位置ずれの精度 ※ X,Y方向共に100mm以下 ・ 図示 杭の鉛直方向の位置ずれの精度 ※ ±10mm(余盛コンクリートをはつり、撤去する) ・ 図示 超音波孔壁測定 ・ 行う()本 ・ 行わない 安定液の種類 ※ OMC系 ・ ペントナイト系 一次スライム処理 底液い完了後スライムクリーナー等により孔底のスライムを吸い上げ、良液の安定液と置換する。 安定液の砂分を掘削中は5%以下、コンクリート打込み前は1%以下とする。 ただし、評定条件に管理値が定められている場合は評定条件による。 スライム沈殿試験 ・ 行う ・ 行わない オールケーシング工法 孔内の水張り ・ 行う ・ 行わない
	材料 砂利 ※ 切込砂利、切込砕石 ○再生クラッシュラン 砂 ※ 山砂、川砂、砕砂
	砂利及び砂地業 (4,5,2)(4,5,3) 厚さ(mm) ※ 60(施工範囲 基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下) ・ 図示
	捨コンクリート地業 (4,5,4) コンクリートの材料 ※ 高炉セメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント 粗骨材の最大寸法 ※ 25mm以下 設計基準強度(N/mm ²) ※ 18 スランプ(cm) ※ 15 ・ 18 厚さ(mm) ※ 50

6. 置換コンクリート地業(ラップルコンクリート地業)	形状 ※ 図示 支持地盤の長期設計支持力度 ・ kN/m ² 支持地盤 ・ コンクリートの仕様 設計基準強度(N/mm ²) ※ 18 スランプ(cm) ※ 15 ・ 18 粗骨材の最大寸法 ※ 25mm以下 型枠使用の有無 ※ 無し ・ 有り 工法 ・ 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は図示による ・ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は図示による 品質管理は「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(2018)」による。 六価クロム溶出試験 セメント及びセメント系固化工材を用いる場合は、六価クロム溶出試験を実施する。 試験方法は国土交通省「セメント及びセメント系固化工材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領(案)」による。 支持地盤の長期設計支持力度 ・ kN/m ² 支持地盤 ・ 鉄筋 ○開先付き異形鋼筋(・WSD390 ○WSD490) ・ 図示 溶接接合 ○溶接形状 鉄筋コンクリート造配筋規準図(3) 18 杭頭補強筋の接合(開先付き異形鋼筋)による。 溶接方法、溶接材料及び溶接技術者 溶接方法 ガスシールドアーク半自動溶接 被覆アーク溶接 鋼管又は鉄骨の材質(N/mm ²) 400 490 400 490 鋼管又は鉄骨等のF値(N/mm ²) 235 325 235 325 溶接材料 JIS Z 3313 JIS Z 3211 T49J0T1-1CA-UH5 E4916 溶接技術者 JIS Z 3841 JIS Z 3801 SA-2V, SA-3V以上又は A-2V, A-3V以上又は AW積定工事現場溶接Ⅲ類以上 AW積定工事現場溶接Ⅲ類以上 溶接姿勢 立向き(V) 立向き(V) 溶接部の外観検査 溶接後は外観検査を行う。検査項目は、溶接長さ、のど厚寸法、余盛寸法、アンダーカット、ビード不整及びオーバーラップ、割れとする。 ・ 図示 溶接施工試験 ・ 行う(試験内容 ※ 溶接施工、外観検査 ・ 引張試験) ○行わない 既存杭の有無 ・ 無し ○有り(範囲 ※ 図示) ・ 地中障害の有無 ○無し ・ 有り(範囲 ※ 図示) ・ 撤去、復旧方法は図示による。 元請工事施工者は杭工事の着手に先立ち、杭工事の関係者に対して施工計画の検討、確認を行う着事前周知会(事前検討会)を開催すること。 ○受注者は、杭の施工に当たり、杭先端が設計図書に示された支持層に達したことを掘削(回転)低抗値、掘削土の状況などにより、杭全数について1本1本適切に確認しなければならない。また、確認のための資料を整備及び保管し、監督員の請求があった場合は速やかに提示するとともに、工事しゅん工検査請求書提出時までに監督員へ提出しなければならない。 ○杭の施工に当たり、支持層への到達、現場接合及び先端処理については、全本数について監督員等の立会を受けなければならない。また、円滑に立会が行えるよう、杭のスケジュール管理表(任意様式)を作成し、事前に監督員へ提出して確認を受けなければならない。なお、立会を確認した資料等については、工事現場において読み取り可能な状態で写真撮影し、立会写真とともに監督員へ提出しなければならない。
7. 地盤改良(セメント系固化工材を用いた工法による改良)	
8. 直接基礎	
9. 杭頭補強筋	
10. 既存杭、地中障害	
11. 着工前周知会(事前検討会)	
12. 支持力及び支持地盤の確認	

5章 鉄筋工事			
1. 材料	鉄筋の種類 (5,2,1) 規格 種類の記号 径(mm) 備考 ◎JIS G 3112 鉄筋コンクリート用棒鋼 ◎SD295 D10~D16 ◎SD345 D19~D25 ◎SD390 D29~ ・ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けた高強度鉄筋(降伏点が490N/mm ² 以上) ○建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋 ◎KSS785 S13 溶接金網(JIS G 3551 溶接金網及び鉄筋格子) (5,2,2) 鉄線の径及び網目の形状、寸法 ※φ6-100x100 (使用部位 ※ 防水層の保護コンクリート、配管埋設用コンクリート)		
2. 加工及び組立	鉄筋の継手 (5,3,4) 柱及び梁: D19以上 ※ ガス圧接 ・ 重ね継手 ・ 機械継手 ・ 溶接継手 D16以下 ※ 重ね継手 ・ 重ね継手の長さ ・ 図示 ※ 40d(軽量コンクリートの場合は50d)と2-9-1(重ね継手及び定着の長さ)の表のうち大きい値とする その他: ※ 重ね継手 (適用箇所) 場所打ちコンクリート杭 ※ 重ね継手 隣合う継手の位置 ※ 表5.3.3による ・ 柱、梁の主筋を同一箇所に設ける(適用箇所)		
	鉄筋の定着 (5,3,4) ※ 鉄筋コンクリート造配筋規準図(1)の2-9(重ね継手及び定着の長さ)による ・ (一財)日本建築センターの評定を受けた定着プレート工法(適用箇所 ※ 図示)		
	鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (表5.3.6)(5,3,5) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ※ 表5.3.6による ・ 軽量コンクリートの場合のかぶり厚さ(適用箇所 かぶり厚さ(mm)) ・ 耐久性上不利な箇所のかぶり厚さ(適用箇所 かぶり厚さ(mm))		
	スペーサー 側面のかぶり ・ 鋼製 ・ コンクリート製 ※ 合成樹脂製 スラブ ※ 鋼製 ・ コンクリート製 ※ 合成樹脂製 その他 ※ 鋼製 ※ コンクリート製 ・ 合成樹脂製 ※ 鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。 ※ コンクリート製のスペーサーは、打ち込まれるコンクリートと同等以上の強度を有するものとする。		
	各部の配筋 (5,3,7) 基礎梁主筋の継手、定着及び余長(4-2) ・ (a) ○(b) ・ (c) ・ 図示 梁せいが1.5m以上の場合の腹筋及び幅止め筋 ※ 図示 (5,3,2) 基礎梁梁成1.5m以上の場合のスペーサー ※ 鉄筋加工 ・ 既製品 柱の帯筋組立の形 ※ H形 ・ W-1形 ・ SP形 ・ 丸形 (5,3,2) 柱の帯筋の割付け ※ 図示 ・ 5-3 帯筋の割付け 壁梁の場合、腹筋の定着長さはL2、重ね継手長さはL1とする。 コンセントボックスを壁に埋め込む場合の補強 ※ 図示 (5,3,4) 梁貫通補強 ○H形 ・ M型 ・ M型 (5,3,4)(5,3,2) ○建設省技術指針又は(一財)日本建築センター-評価を受けたもの(原則として無孔梁の終局せん断強度以上となる補強を行う) 柱頭定着長さが確保できない場合の補強 ※ 図示 ・ 5-1-2 かご鉄筋による		
3. 鉄筋継手	ガス圧接継手 ガス圧接継手は「鉄筋継手工事標準仕様書・ガス圧接継手工事」(2017年) (5,4,1) (公社)日本鉄筋継手協会)による A級継手の適用箇所 ※ 無し 継手施工会社 ※ (公社)日本鉄筋継手協会から認定を受けたA級継手圧接施工会社 又は優良圧接会社 ・ (公社)日本鉄筋継手協会から認定を受けたA級継手圧接施工会社 圧接技術資格者 ※ 図示 (5,4,2) JIS Z 3881による技量及び(公社)日本鉄筋継手協会の技量資格を有する者 施工前試験 ※ 実施しない(ただし、A級ガス圧接継手は施工前試験を実施する。) ・ 実施する 継手の位置 ※ 鉄筋コンクリート造配筋規準図4-2 基礎梁主筋の継手、定着及び余長、5-1 柱主筋の継手、定着及び余長、6-2 大梁筋の継手、定着及び余長による ・ 図示 継手部の試験、検査 (5,4,10) ※ 5.4.10(イ),(b)による超音波探傷試験 (※ 汎用探傷器 ・ 専用探傷器) ・ 5.4.10(イ),(b)による引張試験 ※ 外観試験(全数)		

設計者	法適合確認欄	検証者	設計番号	特記	徳島県土木整備部営繕課	●工事名 徳島県鳴門総合運動公園野球場改築工事のうち建築工事(第1工区)	●図面番号 S-001	第18版B 2023.09.25
一級建築士 第286776号 渡邊 和幸			17992			●図面名 建築工事特記仕様書(10)<構造関係(1)>	●縮尺 1/	
一級建築士 第298249号 土生 達哉								
一級建築士 第334570号 倉内 信幸								
一級建築士 第382844号 野中 翔太								
一級建築士 第382844号 佐藤 亮太								
一級建築士 第382844号 倉内 信幸								